

2011年7月12日

JFE エンジニアリング株式会社

JFE 環境株式会社

JFE エンジニアリンググループの環境リサイクル事業に於ける中核会社である JFE 環境株式会社は、プラスチックリサイクル事業や蛍光灯リサイクル事業、廃液処理事業などを中心に、年間 220 億円の事業を行っています。

今般、横浜市鶴見区末広町に廃プラスチックなどの可燃物、廃酸、廃アルカリ、廃油などの産業廃棄物を年間 6.2 万トン焼却処理する施設「横浜エコクリーン」を稼働開始致しました。

これにより、既存の川崎エコクリーン(旧エヌエス・ユシロ株式会社)と扇島焼却炉を併せ、首都圏における焼却炉 3 炉体制を確立致しました。

### 1.新焼却炉の設備の特徴

工場や倉庫などから排出される廃プラスチックや廃棄商品などの可燃物をキルン・ストーカ炉にて燃焼し、その排熱を利用して 1,800kw の発電を行っています。余剰電力は、隣接する JFE 環境の横浜クリーン資源化工場、及び JFE エンジニアリング鶴見事業所構内に供給しております。

今回の新焼却炉では、キルン・ストーカ炉とキルン式灰溶融炉を組み合わせた世界初の焼却・溶融システムを採用しております。この組み合わせにより、焼却物の均質化を図ることができると同時に、安定度の高い操業が可能となりました。また、キルン式灰溶融炉からの廃熱回収も行っており、ボイラーでの熱回収効率を高めています。燃え殻を溶融してできたスラグは、コンクリート用および埋め立て用の砂の代替品としてマテリアルリサイクルする予定です。

そのほか新しく導入した技術としては、煙突から排出される排ガスを効率よく管理しその安全性を高めるため、従来のフィードバック制御システム<sup>\*1</sup>に加え、フィードフォワード制御システム<sup>※2</sup>を導入致しました。安全に処理された排ガスの成分値はリアルタイムで横浜市に情報開示しております。

また工場内に降った雨水についても環境に配慮し、500m<sup>3</sup>の貯水槽に貯え、焼却炉の冷却水として再利用しております。

同様に工場周辺の環境にも配慮し、二酸化炭素をより多く吸収するマテバシイやモチノキの若木を植栽し、緑地化を図っております。

※1: 煙突から排出される排ガス成分の分析結果をリアルに反映し、排ガスを規制値以下にコントロールする制御システム。

※2: フィードバック制御では放出直前の排ガスの分析データを基に、排ガスが規制値を超えないよう薬剤の投入量をコントロールしますが、フィードフォワード制御では、薬剤を投入する前の早い段階で分析を行い、排ガスを規制値以下にコントロールします。これにより、数値の変動に対し迅速に薬剤投入量を調整するなどの対応が可能となります。

## 2.新焼却炉の概要

所在地：横浜市鶴見区末広町2-1-5

建設費： 約38億円 敷地面積：約  
12,960m<sup>2</sup>

工場建屋面積：  
約1,750m<sup>2</sup>

処理能力：  
62,000トン/年

## 3.JFE環境株式会社の概要

設立：1977年10月

本社：〒230-0044 横浜市鶴見区弁天町3番  
地1

資本金：6億5千万円

株主：JFEエンジニアリング(株)100%

代表取締役  
役：塚本 英夫

事業内 プラスチックリサイクル事業

容： ペットボトルリサイクル事業  
蛍光灯・乾電池リサイクル事業  
廃酸・廃アルカリ処理事業  
固形廃棄物中間処理事業  
産業廃棄物収集運搬事業 他

売 上 高： 223 億円(2010 年度連結ベース)

従 業 員： 約 1,020 名(2011 年 5 月現在、協力会  
社含む)

主たる事業 横浜市鶴見区 川崎市川崎区 仙台市 福  
所： 山市(広島県)

**【添付資料】横浜エコクリーンについて(PDF1.1MB)**

以上

●本件に関するお問い合わせは下記にお願い致します。  
JFE エンジニアリング株式会社 総務部 広報室